

JAハリマでは、土づくりを目的とした土壌分析を平成22年度から3年計画で行っています。平成22年・23年で実施した分析結果をもとに、各町の傾向を掲載しております。

平成22年度・23年度に実施した土壌分析をもとに土づくりを目的とした説明会を実施します。集落における傾向と対策について説明いたしますので、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

分析試験結果

分析試験項目 試料名	pH(H ₂ O) (pH)	電気伝導率(EC) (mS/cm)	カルシウム (mg/100g)	苦土 (mg/100g)
	土壌酸度を表している。 pH 酸性 ← 7.0 → アルカリ性	土壌中の肥料の多さを示している。	細胞と細胞の中においてその生成と強化に関係している。	リン酸吸収を助ける。
目標値	6 ~ 6.5	0.2 ~ 0.4	200 ~ 250	25 ~ 35
圃場名	一宮 (平均)	6.1	208.3	20.9
	波賀 (平均)	5.8	183.3	16.5
	千種 (平均)	5.7	141.9	16.3
傾向と対策	酸性が少し強いので、石灰を施用する。	基準値より少ないので施肥基準を守る。	基準値以下の個所が多いので石灰を施用する。	基準値以下の個所が多いので苦土重焼燐を施用しましょう。

分析試験項目 試料名	カリ (mg/100g)	CEC(陽イオン交換容量) (meq/100g)	リン酸 (mg/100g)	腐植 (%)
	植物体内での新陳代謝に効果が高い。	保肥力を表し、数値が高いほど保肥力が高い。	作物の根や茎の生育を促進させる。	地力の維持に必要。
目標値	20 ~ 30	12以上	10 ~ 30	3 ~ 5
圃場名	一宮 (平均)	21.4	20.4	4.2
	波賀 (平均)	15.2	19.5	5.6
	千種 (平均)	11.2	10.5	5.0
傾向と対策	基準値を下回っているので、カリ肥料を施用する。	有機物の施用で保肥力が維持できるので堆肥やアツミンを施用しましょう。	基準値内の個所が多いですが苦土重焼燐を施用しましょう。	地力は基準値以上ですが、地力維持のために有機物を施用しましょう。

裏面はにんじんの栽培を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.256 平成24年 8月13日発行

作型

作りやすいのは、夏まきで11月~12月収穫の栽培である。畑は早目に完熟堆肥と石灰を施し、15~20cmの深さに耕す。順調に生育させるには、本葉2枚目までと、根の肥大期にあたる本葉6枚目頃の水やりが大切。

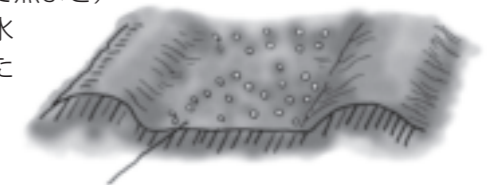
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春まき			○	○			■	■	■	■			向陽二号・陽明五寸
夏まき	■	■	■	■				○	○			■	向陽二号・夏時鮮紅五寸 金時人参・黒田五寸

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり	a 当たり
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥	a 当たり
醗酵鶏糞	20kg
畝立時施用	

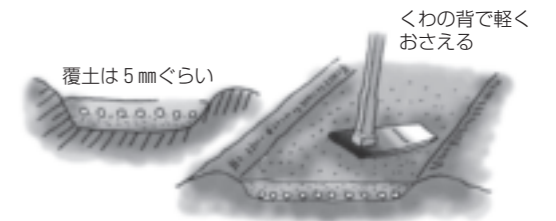
- 2条まき：畝幅80~90cm(条間30cm)10cm程度のまき溝を作る。
- 十分灌水してから種をばらまきし、薄く覆土(4~5mm)後、鎮圧する。(コーティング種子は10cm間隔で点まき)
- 発芽まで乾燥を防ぐため十分灌水し、切りわら並びに寒冷紗をべたがけするとよい。



種は溝いっぱいにはらまきする。

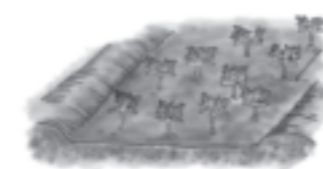
間引き・追肥

- 本葉1~2枚時：こみ合っているところを間引く。
- 本葉3~4枚時：5cm間隔に間引く。
- 本葉6~7枚時：7~8cm間隔に間引き、追肥する。
- 2回目の間引き後から追肥、土寄せを行う。(追肥は1回目と反対側に施す)
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料4~5kg/a)

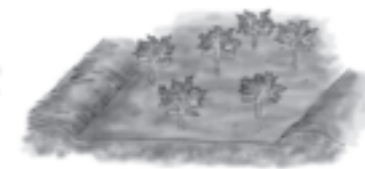


くわの背で軽くおさえる

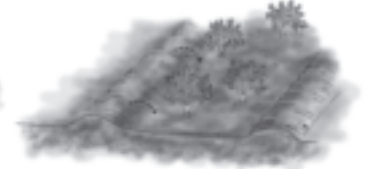
覆土は5mmぐらい



間引き1回目



間引き2回目



間引き3回目

防除

病害虫名	耕種防除	農薬による防除
黒葉枯病	発病株を除去する。 肥切れしないようにする。	ダコニール1000(1,000倍) 7日前まで5回 Zボルドー(500~800倍)
軟腐病	高温時の播種を避ける。	Zボルドー(500倍)
ヨトウムシ	早期に発見し、分散前に捕殺する。	ランネート45DF(1,000倍) 前日まで2回

収穫

- 発芽後110~120日位で収穫の目安とする。
- 太くなったものから順に抜き取る。
- 穫り遅れないように注意する。



裏面は管内の土壌分析についてを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.256 平成24年 8月13日発行